

天候と葉色を見て、後期栄養の確保を！ 飽水管理を徹底しましょう！！！！

1 水稻の生育状況（7月20日現在）

- (1) コシヒカリは草丈【並】、茎数【やや多】、葉齢【並】、葉色【並】、こしいぶきは草丈【長】、茎数【やや少】、葉齢【並】、葉色【並】となっています。
- (2) 草丈・葉色ともに地域差が見られます。
- (3) コシヒカリの出穂予想は、平年並み～2日程度早まる見込みです。

() 内は目標比

品 種	草 丈	茎 数	葉 齢	葉 色
コシヒカリ	83cm (104%)	402 本/㎡ (106%)	12.2 葉 (-0.2)	SPAD 33.8 (+0.1)
こしいぶき	81cm (116%)	408 本/㎡ (95%)	12.8 葉 (+0.3)	SPAD 37.6 (+0.6)
新之助	66cm (108%)	414 本/㎡ (89%)	11.8 葉 (+0.7)	SPAD 33.4 (±0)

「新之助」幼穂形成期確認状況 : 曾野木 7/19 味方 7/20

2 コシヒカリの穂肥対応について

1か月予報では今後の気温が7月中は平年並か低くなり、8月は平年並から高くなると見込まれています。(7月21日新潟地方气象台) 今後の予報に注意しましょう。

穂肥を適正に施用し、栄養凋落で品質が低下しないようにしましょう。

【分施体系】

- 2回目の穂肥は、後期栄養を維持するために、確実に施用しましょう。
- 今後の気象予想で高温が予想され、出穂期に葉色が SPAD で 33 (葉色板で 4) を下回ると予想される場合は、出穂3日前 (走り穂が出る頃) までに窒素 1.0kg/10a 程度施用しましょう。なお、減減栽培で規定の化学肥料由来窒素量を超える場合は有機 100% 肥料を活用しましょう

【基肥一発体系】

- 表1をめやすに基肥一発肥料であっても葉色が薄い場合は穂肥を施用しましょう。

表1 穂肥施用判断のめやす

判断時期	葉色の低下程度	窒素施用量
7/25頃	SPAD33 (葉色板で4) を下回り、出穂期の葉色が SPAD33 を維持できないと予想される場合	1.0~1.5kg/10a (1.5kg/10a)※

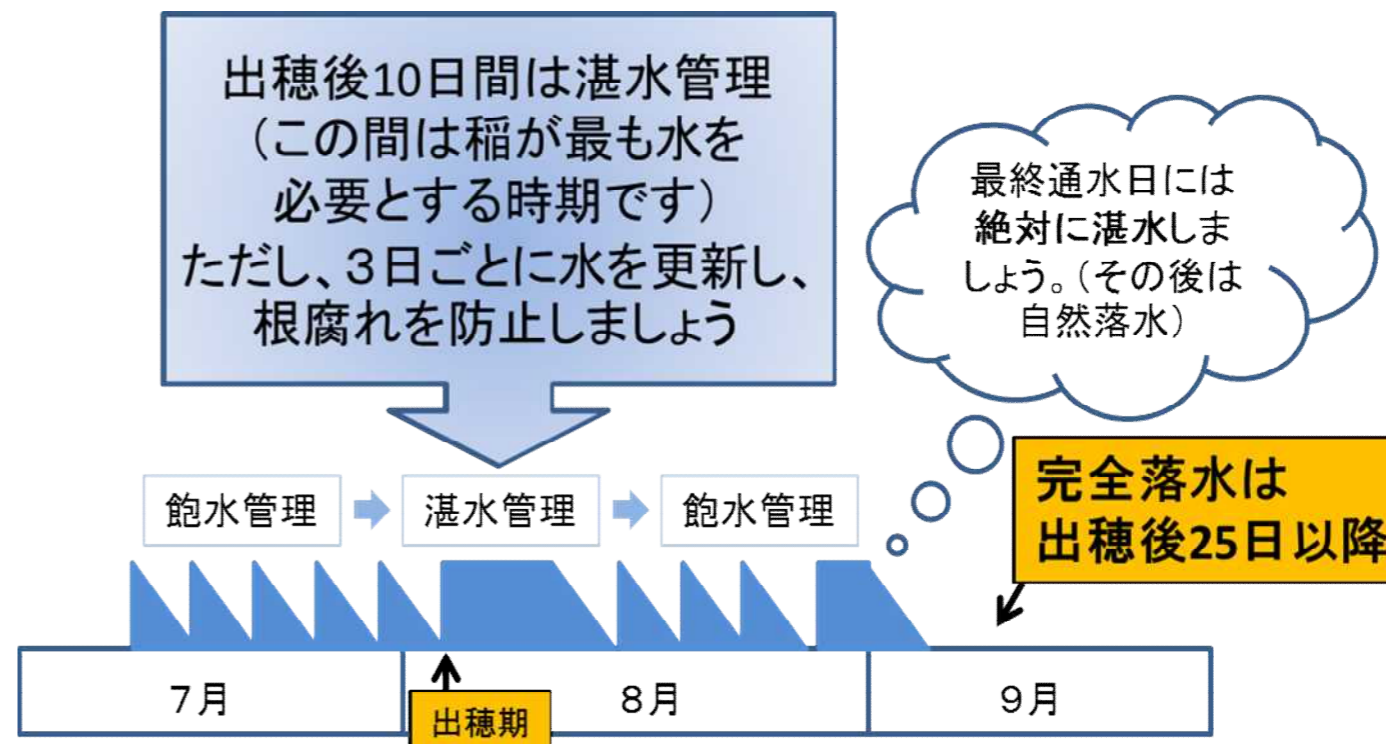
※ () 内は有機 100% 肥料の場合の窒素量

3 斑点米防止対策

- カメムシ類の多発注意報が出ています。適期防除と併せて、本田防除前に畦畔・農道の草刈りを徹底し、斑点米の発生を防ぎましょう。
- 共同防除地域外の方は必ず個人防除を実施しましょう。

4 今後の水管理

- 出穂後10日間は湛水し、その後は飽水管理をしましょう。
【飽水管理とは】
水尻を止め3~5cmに湛水し、自然減水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水がたまっている箇所が散見される状態になったら、また3~5cmに湛水する。これを繰り返す。
- 異常高温、強風フェーンが予想される場合はあらかじめ湛水し、急激な蒸散による障害を防止しましょう。



熱中症に注意！ 暑い中、人にも稲にも水分を！

農薬の散布を行う際は、ラベル等をよく確認してから散布しましょう！！